社神日春

社報 春日神社

歳末号（第42号）

発行日 令和6年12月15日

発行者 〒870－0031
大分市勢家町4－6－87
春日神社 宮司 宮本隆之
TEL097－532－5638

題字 東郷平八郎

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ
天皇皇后両陛下行幸啓
令和七年初詣のご案内／授与所の時間
初詣交通規制／厄祓いのご案内／戌の日のお知らせ
賢女起世の碑／古札御守のお焚き上げ
有村治子氏寄稿「言霊幸う国に」／トピックス
婚礼部より

歳末ご挨拶

宮司　宮本　隆之

令和六年も早や師走となりました。歳末にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

天皇皇后両陛下には、去る十一月九日十日の二日間に亘り本県に於いて開催された「第四十三回全国豊かな海づくり大会」ご臨席のため行幸啓せられました。本紙中にもその御様子を掲載しておりますが、多くの県民が国旗の小旗を振りながらお迎えさせていただき、両陛下には親しくお応え賜りました。私たち神社関係者は、今回も沿道の皆様に国旗を配布してお迎えのお手伝いをさせていただきましたが、皇室と国民との暖かい交流に、変わらない美しい日本の姿を見ることが出来得ました。

さて本宗と仰ぐ神宮では去る四月に天皇陛下の御聴許を賜り、第六十三回神宮式年遷宮に向け諸儀が始まります。五月に斎行されます山口祭からいよいよ令和十五年秋の遷御に至るまで国民総奉賛のもと、滞りなく執り進められますよう当社と致しましても努力して参りたく存じております。

令和六年は元日に発生した能登半島地震を皮切りに、洪水や酷暑など自然災害に見舞われた一年でした。また政治経済においても落ち着きのない不安定な状況にあったように感じられました。その中でパリ五輪での日本人選手の、また大リーグ大谷選手の活躍に多くの国民が元気と笑顔を貰いました。

迎える年は乙巳年、「努力を重ね、物事を安定させていく年」とされています。氏子崇敬者皆様にとりまして、輝かしき良き年となりますようご祈念申し上げますとともに、是非とも吉例にならい新春の御社頭にお越し下さいますようご案内申し上げまして、御礼方々ご挨拶とさせて頂きます。

祭典ごよみ

十二月三十一日　師走大祓式・除夜祭
一年間の罪穢れを祓って新年を迎えるために心身を清めるとともに、行く年への感謝を祈念します。

一月　一日　歳旦祭
元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の安寧をお祈りします。

二月　六日　初午祭（摂社　稲荷神社）
本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。五穀豊穣と産業発展を祈念します。

二月十一日　紀元祭
令和七年は皇紀二六八五年、日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月十七日　祈年祭
本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

二月二十三日　天長祭
今上天皇御誕生の日を慶祝する祭典です。

四月十二日　春季大祭宵祭
春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたり庄内神楽が奉納されます。

四月十三日　例祭
当社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月二十九日　昭和祭
昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぎ、激動の昭和を偲ぶ祭典です。

天皇皇后両陛下大分県行幸啓

去る十一月九日～十日にかけて、天皇皇后両陛下には本県大分市ならびに別府市を会場に開催された「第四十三回全国豊かな海づくり大会」（海洋環境・水産資源の変化に対応してわが国漁業の振興発展を目的とする）に御臨席のため行幸啓なられました。両陛下の御来県は平成三十年の国民文化祭以来（当時の皇太子同妃両殿下）で、また御即位後初ということもあり、沿道各所と御宿泊所また会場周辺では多くの県民が国旗の小旗を手にお出迎え致しました。

この「豊かな海づくり大会」の第一回が本県開催でスタートしたこともあり、陛下は御挨拶の中でこのことにも触れられて、関係者に労いの御言葉がありました。

当社では両日にわたり総代や敬神婦人会がお出迎えに参加したほか、職員は大分県神社庁大分支部員として国旗の配布活動を行いました。

令和七年 春日神社初詣のご案内

初詣にあたり、左記の内容をご確認頂きお越しください。三が日に限らず混雑をさけての初詣参拝に、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

【縁起物の事前授与について】

●破魔矢・熊手・土鈴等の縁起物は、十二月二十一日(土曜日・冬至)から社頭にてお受けできます。

●神札・御守は年間を通じて授与しておりますので、ご都合のよい日にお越しください。

(年内の社頭での授与時間　八時三十分～十七時　於 守札授与所)

【神札・御守・縁起物の授与時間】

十二月三十一日	二十三時	～	一月一日　二十二時半
一月二日	七時	～	二十時
一月三日	七時	～	十九時
一月四日・五日	七時半	～	十七時半
一月六日	六時半	～	十八時
一月七日	七時	～	十七時
一月八日以降	八時半	～	十七時

●御朱印は大晦日より書置き(紙)のみの授与とします。(一月十四日(火)から直書き対応)

●おみくじの結び所は設けておりません。引いたおみくじは境内に設置した専用の箱に納めていただくか、持ち帰りください。

【ご祈願について】

●**受付時間**

(個　人)午前九時～午後五時

(団体企業)事前にご予約ください。

●**申込み**

家内安全や厄除など個人の祈願の申込みは当日の受付となります。企業・団体の祈願については電話での**事前予約**を承っております。詳細についてはホームページをご覧ください。

●**初穂料**

個人祈願六千円　企業団体祈願　一万五千円～

●**祈願場所**

一日～七日（五日を除く）までの個人祈願は本殿左隣の儀式殿で、企業団体祈願は本殿にておこないますが、時間が重なった場合は儀式殿となります。

●**受付場所**

期日により受付場所が異なりますのでご注意ください。場所については**「新年祈願受付」**の看板にて表示します。

(個　人)一月一日(水)～一月七日(火)　於 参集殿

※五日(日)は守札授与所

(団体企業)一月一日(水)～一月三日(金)　於 参集殿

一月四日(土)・六日(月)・七日(火)　於 本殿

※五日(日)は守札授与所

※一月八日(水)以降はテントにてそれぞれの受付を行います。

○正月期間中、参拝が難しい方のために郵送祈願を承っております。ご希望の方は社務所へお問い合わせください。

(TEL　〇九七-五三二-五六三八)

【初詣　神社周辺交通規制のご案内】

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。大晦日から周辺の進入路については交通規制が行われますのでご注意ください。駐車場は当社境内地の「春日公園」か、隣接する「フレスポ春日浦」（一月一日～三日まで）をご利用ください。また境内、駐車場ともに禁煙とさせていただきます。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より　1月8日午後2時まで

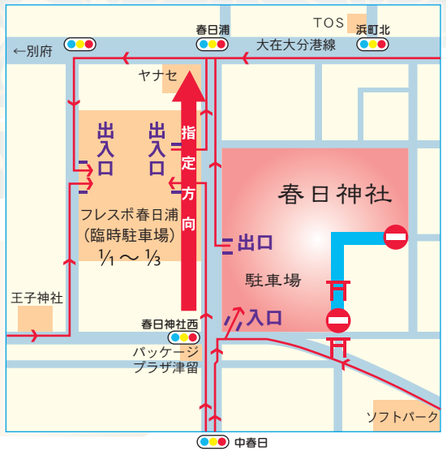
◎指定方向規制

12月31日午後11時より　1月1日午前5時まで

1月1日午前8時より　午後8時まで

1月2日午前8時より　午後7時まで

1月3日午前8時より　午後7時まで



国道10号線の中春日交差点から春日神社に向った場合、
右車線は春日公園内駐車場へ、
左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

厄祓いのご案内

古来より日本では災難の起こりやすい年廻りとして、ある時期の年齢を「厄年」として忌み慎んできました。厄年には前厄・本厄・後厄の三年間があり、その年齢は社会的にも重要な役割を担う時期にあたります。現代の生活にもあてはまる人生の転回期であり、肉体的にも精神的にも調子を崩しやすい注意すべき時期と言えましょう。令和七年の厄年は次のとおりです。

〈令和７年の厄年表〉※年齢は数え年

女性						男性				
61歳	37歳	34歳(後厄)	33歳(本厄)	32歳(前厄)	19歳	61歳	43歳(後厄)	42歳(本厄)	41歳(前厄)	25歳
昭和40年生	昭和64・平成元年生	平成4年生	平成5年生	平成6年生	平成19年生	昭和40年生	昭和58年生	昭和59年生	昭和60年生	平成13年生

令和７年 帯祝い　戌の日について

妊娠５か月目に入った妊婦さんが腹帯を締めて出産の無事を祈る安産祈願。十二支の中で多産なのにお産が軽いといわれる犬にあやかり、戌の日に祈願をおこなう方が近年増えています。１月～６月までの戌の日は次の通りです。

1月	5日・17日・29日
2月	10日・22日
3月	6日・18日・30日
4月	11日・23日
5月	5日・17日・29日
6月	10日・22日

人の恵みを忘れず義なり

賢女起世の碑

春日公園にある蓬莱山の西側に、木立に囲まれて「賢女起世之碑（けんじょきせのひ）」が建っています。

起世（甲斐きせ）は江戸時代の終わりの頃、寛政年間（一七六〇年頃）大分市元町に生まれました。

十歳に上がる前に父母を相次いで亡くし、一人ぼっちになった起世は大分市竹中にいた遠縁の親戚に身を寄せます。そこで野良仕事などの手伝い奉公をしながら子供時代を過ごしたのでした。

十九歳の時に転機が起こります。笠和町に住む甲斐房吉の元へ嫁ぐこととなりました。房吉とその母親との三人での生活が始まり、仲睦まじく暮らしていたそうです。

しかししばらくすると、房吉は体の自由が全く利かなくなる難病にかかり仕事が出来なくなります。起世は夫と年老いた姑を抱え、一家を支えることになりました。寝食を忘れて働き、家族を養っていた当時の様子について「夫の病気次第にさし重り自由かなわず一間に引きこもり打ちふし、気うつ致すべし（たいくつするでしょう）と、手業のひまには背負いて屋敷内を徘徊し、あるいは手足冷え候時は肌にて暖め・・・」（藩行賞行書）と書物に残されています。

哀哀父母、恩が深める縁

さらには、起世が父を亡くした二歳の頃に実母が頼りにしていた修験者が、落ちぶれた姿で起世を訪ねてきます。起世は家族二人に加え、恩義のある修験者の面倒を見ることを決めました。貧しさや大変な労苦もいとわず、男手もかなわぬ働きぶりだったといいます。このような看病が続きましたが、やがて三人ともこの世を去っていきました。

また孤独になった起世はそれでもなお、自分が孝養を三人に尽くせ切れていなかったことを悔いました。その思いは幼かった頃死別した実の父母にも及びました。こうした心情から起世は家族の供養を努めることに専念し始めます。

命日になると花や香を手に墓参を欠かさず、夏になれば「蚊に刺されないように」と、実父母等上記五人の位牌を暑い時期には蚊帳の中に移したり、うちわであおいだりしました。寒い冬には位牌を懐に入れて暖めるなど、生きている時と同じように接し続けました。こうした様子に気が変になったのではと陰口をたたく人もいましたが、一向に気にせず、また年がまだ若かったので再婚を進める人もいましたが、孝行を尽くすことが勤めとして独身のまま過ごしました。

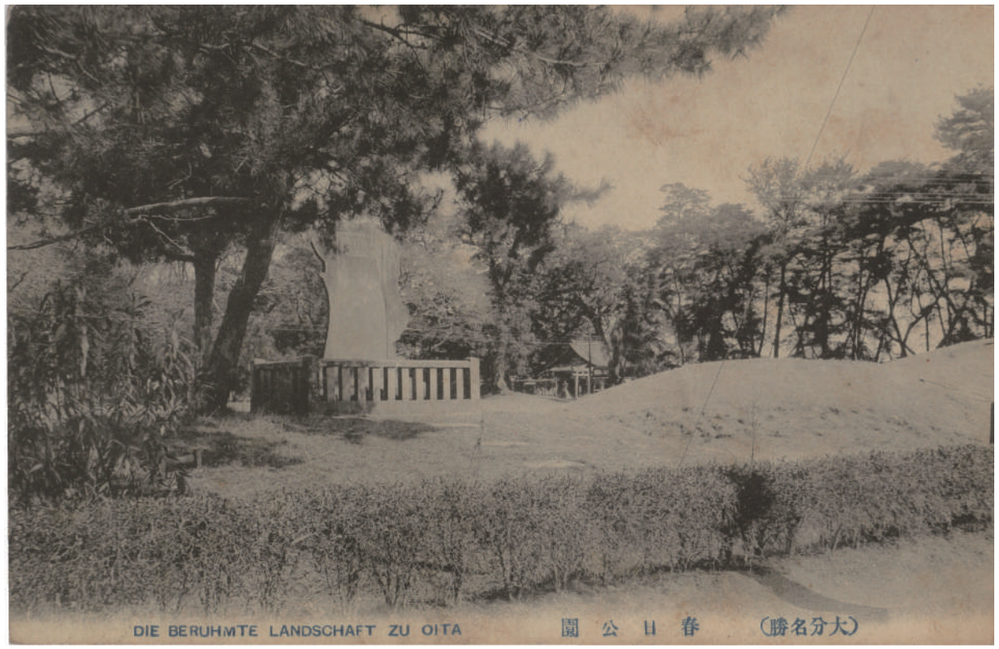
こうした「恩義」にひたすら生きようとする起世の姿は当時、人々の中で大変な感動を呼びました。広まった話はとうとう府内藩主大給松平近説（おぎゅうまつだいらちかよし）候の耳にも届きました。

藩主は「領内の手本であるばかりではなく、領外にも誇れる婦人である」としてこの上なく満足し、さらに多くの人へふれ知らせました。

そして、起世五十五歳の折には特別な計らいをもって終生の扶持（今の年金）が与えられ、毎年正月には府内城中に召し出されてもてなしを受けることになりました。

明治二年、八十歳まで長生きして没した起世でしたが、人々の敬愛を受けながら穏やかな余生を送ったと言われています。

現在の起世の碑



蓬莱山に建つ大正時代の碑

昭和初期に水道が初めて大分市内に敷設され始めた頃、水道を市民に宣伝しようと春日公園内に池が掘られ噴水が設置される。その際に公園西側の現在の場所に移された。

見返りを求めない生き方

明治十三年、有志によって起世の徳行を称え後世に伝えようという声が高まり、「賢女起世之碑」が建てられました。題字は当時の政府で最も高い地位にあった太政大臣「三条実美（さんじょうさねとみ）」の筆にて刻まれたものです。その経緯は不明ですが、これは非常に驚くべきことです。

社会や多くの人のために重要な仕事をした人、目立たなくても大切な仕事をこつこつと長年続けた人、誰かを救うために力を尽くした人――そうした人の一人として、その行いを世間に明らかに伝えるため、顕彰されたということでしょう。

そしてその碑文の一つにはこうあります。

「人の恵みを忘れず義なり」

起世の行いを見渡した時、二つの事が言えるでしょう。それは親に孝行をし、受けた恩義を決して忘れないということが当時の人々の中では普遍的な価値をもつ重要な徳目であったということです。もう一つは当時生きた人々と現代に生きる私たちとでは心のあり様が別様であるということです。このことは現代の人たちがこの話を読んだときにどう感じるかという事で明白になります。

この二つの事があったからこそ、起世の行いは身分に関わりなく非常の多くの人々の心を打ったのです。

起世の行いから時代を超えて私たちの心に響いてくるものは何でしょうか。

その生き方は春日公園の碑によってこれからも長く伝えられていくでしょう。

古札御守のお焚き上げ

ご家庭や会社などでお祀りした神札や御守は古札納所にお納めください。

お納め可能なものは神社でお受けいただいたものと、しめ飾り（橙は外す）に限ります。

門松・鏡餅・結納飾り・ぬいぐるみ・人形・財布・衣類などは、神社で焼納できませんので、ご協力の程お願いします。

言霊幸う国に

参議院議員　比例代表（全国区）選出
神道政治連盟国会議員懇談会　副幹事長
有村治子

新春を寿ぎ、鎮守の社を尊び厳かな気持ちで新年を迎えられました皆様のご健勝を念じ、心を込めて幸多き一年を祈念致します。旧年中は神社関係者の皆様にご厚誼を賜り、厚く感謝申し上げます。

近年、「この国」という言い方が幅を利かせています。閣僚や自由民主党の国会議員でさえ、「この国」という言葉を多用します。今や違和感を覚える人も少ないのかもしれませんが、私はこの語句を聞くたびに戸惑いを覚え、自分の国を（無意識のうちに）相対化させることへの弊害を案じます。

日本は一体いつから「その国・あの国・この国」と、人指し指で指示される国になったのでしょうか。父祖伝来の郷土、その集合体として先人から継承してきた日本は、我が命と人格を育んでくれた「我が国」であるはずです。かけがえのない「我が国」の独立と家族の安寧を願って一命を捧げられた御霊が、靖国神社に眠られているのではないでしょうか。国難に殉じられた方々が一命を捧げてまでも各々の持ち場に向かわれたのは、まさに「祖国」を想う心からであり、「この国」ではなかったはずです。

私達は家族や地域、学校や職場など、多くの組織や共同体に属しています。夫や妻、あるいは親子や同僚が「そもそもあの人は…」「この家は…」「あの学校は…」「その地域は…」といった指示語を敢えて使う時、多くの場合は自らと距離を置きたい時や、批判的な立場を取る時に、このような指示語が使われます。

もし自民党の主たる構成員である議員が「この党は」と、政党と自らに距離があるかのような突き放した言葉を使い続けたら、国民の皆さんは果たして自民党を支持し、力を与えようと思って下さるでしょうか。社長や役員達が「この会社」と、組織と経営責任を切り離すような物言いを続けた先に、会社の発展や消費者の信頼はあるのでしょうか。

私達は日頃、「我が家では」「ウチの子は」「私達の会社では」と帰属意識を明確にした言葉を使うことによって、自らが属する組織や地域への愛着や情を示すと同時に、自らの立ち位置や責任を明らかにしています。子供達が運動会で「赤組ガンバレ！」「白組フレーフレー」と躍起になるように、自らが主体的な構成員だと認識するからこそ、「その発展のために尽くそう！」と努力する気持ちや誇りが育まれるような気がします。

私達民族の食習慣は和食であり、数ある選択肢の一つにすぎない日本食ではありません。言語の一つと相対化する「日本語」ではなく、私達の母語は「国語」であり、日本史は本来私達にとって「国史」と言うべき、民族が全力で紡いできた命の系譜であるはずです。

父祖伝来の国土や文化的集積を持つ「我が国」を一般的名詞として相対化させ、自らのアイデンティティと国家に距離を置くかのような言葉遣いが蔓延することに、果たして国家弱体化の政治的意図はないのでしょうか。自らが地域や国家の未来を担うという気概なき言葉遣いが、内外の難局を乗り切らねばならない現在の日本にとって、果たして健全な風潮なのかどうか。少し冷静になってみることも必要かもしれません。

自らが発する一語一句に魂や哲学を込める「言霊（ことだま）」という素晴らしい言葉を、先人は遺してくれています。万葉集いわく、私達は、言霊（ことだま）幸（さきわ）う国（言葉が持つ霊的な力が幸福をもたらす国）に生まれし国民であります。温かく、主体性のある言葉を使っていきたいものです。

（今年）七月に行われる参議院選挙に向けて、神道政治連盟は比例代表（全国区）において、有村さんを推薦する機関決定をしています。

兼務社　王子神社安部栄吉殿
全国神社総代会表彰

九月十一日、香川市の香川県民ホールにて「第五十九回全国神社総代大会」が開催され、当社兼務社の王子神社安部栄吉責任役員が、「多年神社の経営並びに神徳の宣揚に協力し、氏子崇敬者の教化に貢献し、その功績顕著な者」として全国表彰されました。

当日は遠方のため出席は叶いませんでしたが、十月三十一日の大分支部神職総代大会に於いて、神庁長より祝意が述べられて伝達がありました。

二胡の奉納演奏

九月二十二日、大分市内で二胡教室を運営している橘雅子先生のもと、生徒皆さんの発表会が当社参集殿で開催されました。演奏に先立ち神前にて奉納演奏が行われ、伴奏のギターとの二重奏が殿内に響き渡りました。また参集殿での発表会には一〇〇名を超す来場者があり、珍しい二胡の音色に聴き入っていました。

※参集殿の使用について…
大分市のアーティストバンク「ＰＯＡＲＴ」からの申込みとなります。神社が皆様のお役にたつ場所、交流の場所となればと存じます。

敬婦全国大会
北海道大会

九月二十七日、「第七十四回全国敬神婦人大会」が北海道札幌市の札幌パークホテルを会場に、約八〇〇名の会員が全国から参集して開催され、当社からも平野邦子会長以下一〇名が参加しました。

大会では地元よさこいソーランの演舞が披露され、続いての式典は鷹司統理様にご挨拶を頂き、さらに鈴木北海道知事も駆けつけて歓迎の挨拶がありました。

当社婦人会は大会に先立ち札幌諏訪神社へ正式参拝、また北海道神宮へも参拝させていただきました。来年の大会は青森県開催とのことです。

春日神社婚礼 春日物語 「乙女の巻」～kasuga ワークショップ～

令和６年12月15日（日）14時～16時

秀絃会

古典のしらべを体験
「箏（こと）体験レッスン」
先着８名様／参加費：2,300円
＊貸箏爪料無料

INTHEEAST

神社で作る初めての
「レザーのミニウォレット」
先着10名様／参加費：2,300円
＊小学生以上対象、
小学生は保護者同伴

御菓子司 讃州堂

老舗菓子司職人による
「ねりきり細工」
先着10名様／参加費：3,300円
＊エプロンと手拭き
タオルを持参下さい

結（むすぶ） ここちよ

ココロ華やぐ日本の伝統工芸
「箸袋の水引飾り」
先着16名様／参加費：1,300円
＊8歳以下は保護者同伴

男性・お子様も参加できます。デザート＆ドリンク付

〈お問い合わせ・ご予約〉春日神社　婚礼担当
TEL：097-532-5638